

# 平成 22 年度第 1 回ルール委員会議事録

開催日時：2010年5月9日 10:00～16:00

場 所：岸記念体育会館

参加者：

<委員> 増田委員長、大村副委員長、前園副委員長、松原、前田、柴沼、川北、日下部、村松、田中、岡部、山口、高野、佐藤(百)、木内、岡嶋 計 16 名 (欠席 15 名)

<顧問委員> 周東、米澤 計 2 名 (欠席 2 名)

<支援委員> 種田 1 名 (欠席 1 名)

<事務局員> 富松、石川、川田 計 3 名 (欠席 3 名)

## 1. 平成 22 年度ルール委員会事業計画説明 …… 増田委員長

- ・昨年度トピックス：B 級の新規資格認定者 500 名、  
選手・指導者向けルール講習会 (600 名以上の参加で好評を博した)。
- ・今年度ルール委員会の役割分担の説明

## 2. 今年度小委員会活動計画

### 2.1 ジャッジ小委員会 …… 山口小委員長

#### 2.1.1 A 級ジャッジ資格要件充足状況と未充足者への対処

- ・未充足者のうち猶予の返答なしは 7 名だが、連絡ないことを理由に剥奪することをせず、本人の意思を確認するよう、今後も連絡を取り続けることとなった。
- ・電話等で充足、更新の意思なしを確認した場合には、B 級を付与することとなった。
- ・規定改定により、船舶免許必須となったことが、資格要件充足のネックになっているとの懸念があったが、更新前の未取得者 19 人中 15 名が取得した実績より、ネックではないと判断する。

#### 2.1.2 ジャッジ・セミナー展開計画

- ・A 級ジャッジ・セミナーは東京、愛知のみで実施。今年度はより多くの地域での開催をしていくこととなった。すでに愛媛より開催依頼有り。

#### 2.1.3 ケース・ブック改定邦訳計画

ケース・ブック 2009-2012 の一部が改定されていることにつき、早期に邦訳を行っていくことが確認された。

#### 2.1.4 NJ/NU 規定見直しの必要性について

- ・新しい規定に盛り込まれたいくつかの要件に対し、充足可否が取沙汰されていることより、再度改定してはどうかとの意見もあるようであるが、まだ改定したばかりなので、少なくとも 2 回 (8 年は) は現行規定にて様子見とすることとなった。但し、地方水域などで年 2 回のレース機会そのものがないなどの懸念あり、現行規定での問題有無について、ジャッジ小委員会で情報収集を行うが、その方法を検討するこ

ととなった。(参考) 現在 A 級ジャッジは 370~380 名程度

## 2.2 IJ/IU 育成小委員会 …… 増田委員長

- まだ一次構想のレベルであるが、今後継続的に IJ/IU を排出していくためには、従来の、個人的つながりをベースにした個々の活動だけではなく、他 MNA へ積極的に働きかけ、定期的に国際レースを相互で開催し、IJ/IU 候補者を互いに行かせるような、Exchange Program のような仕組みの構築の提案が提出された。これは、田中委員が国内で開催されたマッチ・レースに招待した US セーリングの IJ/IU と話合って構想したものである。本構想について、委員からいくつか意見または感想が述べられた。以下がその一例である。

- IJ セミナー招致の検討も併せて行うべきである。
- Exchange Program を実現させるためには、他 MNA から、IJ/IU 候補者を行かせたいと思わせる、国内でそれなりの Grade のレースの開催を行う必要がある。現時点では、対象となる大会は、オリンピック・ウィーク、和歌山インターナショナルしかない。
- JSAF 主催で IJ の組まれる 2 大会 (オリンピック・ウィーク、和歌山インターナショナル) に招聘する海外 IJ として、ISAF 委員会の実力者を招聘してはどうか。また、日本人 IJ の参加はゼロにしてでも日本人 IJ 候補の枠を増やすことはできないか。
- IJ/IU だけでなく、IRO 含めた Race Officials としての活動が望ましい。

本件については、レース委員会にも働きかけ、企画を練ることとなった。

## 2.3 アンパイア小委員会 …… 田中小委員長

- 選手のレベルアップに対し、アンパイアのレベルもより向上しなければならないと認識。今年度は、アンパイアの育成と新規候補者の掘り起こしを行っていききたいとの希望があった。

## 2.4 規程小委員会 …… 岡部小委員長

- 改定 JSAF 規程の英訳が提示され、承認された。
- NJ/NU 規程の事務取扱い要綱、規程施行細則の見直しについて …… 日下部委員
- 上記要綱、細則の見直し案が提示された。今後講師経験者などから意見を集約し、精度を高めていくこととなった。主な意見としては、ジャッジまたはアンパイア認定料とかかる経費とのアンバランスに関することであったが、これは、レース委員会主催の、NRO、ARO とのバランスを図ることも考慮し、検討していくこととなった。
- ISAF 規程邦訳については、量が多いことに加え、アンチドーピングなど、医学用語が含まれ、かつ JADA の用語との整合を図る必要があるなど、仮邦訳をチェックすることすら相当なスキルと時間を要するため、日程と担当をより明確にし、推進していくとした。

## 2.5 外洋小委員会 …… 大村小委員長

- ・ 外洋レース規則2009・RRS42.3(h)の普及・検証を進めるとした。
  - ・ 外洋レース規則は、昨年度：アラン・レース、パールレース等、今年度：沖縄レース等の本格的な外洋レースで適用実績がある。
  - ・ レースでの利用結果等を踏まえた検証・フィードバックが必要という意見があった。

## 2.6 普及小委員会 …… 前園小委員長

- ・ 昨年度好評を博した、選手・指導者向けルール講習会を今年度も重点を置いて実施していくとした。因みに、昨年度の同講習会での書籍販売実績は、ルールブック：76、ケース・ブック：88、デイブペリーの解説：10、ジャッジマニュアル：9であった。
- ・ 昨年度は全国12箇所で開催したが、各地域を母数と考えれば決して多い数字ではないため、今年度は早期に開催概要を告知またはルール委員会からの働きかけを行うなど、昨年度以上の参加を促す様推進していくとした。

## 3. IJ/IU 推薦小委員会 …… 増田委員長

- ・ H22年度IJ/IU候補推薦委員会メンバーに対する審議が行われ、承認された。

## 4. 規則42解釈邦訳の改定について（審議事項） …… 前園副委員長

- ・ 改定についての解説資料は、規則42解釈邦訳の改定版とは分けて公示することとし、本改定は承認された。

## 5. JSAF各規程とRRC関連事項の整理 …… 日下部委員

- ・ JSAFが公益法人に移行するにあたり、表記規程等を棚卸しした。
- ・ これより、JSAFとしての規程に、JSAF規程が未掲載など、見直しを要すると思われる箇所が散見されるため、今後は正副委員長および日下部委員で進め方を検討していくこととなった。

## 6. 今年度第2回以降のルール委員会日程について

- ・ 第2回は10月2日(土) or 3日(日)。
  - ・ 第3回は2月26日、27日 or 3月5日、6日
- ※ いずれも会場は未決定

以上